

第62期 株主通信

平成21年4月1日～平成22年3月31日

sawai TODAY

patients
first



沢井製薬株式会社 ジェネリック医薬品のトップブランド

証券コード 4555

なによりも患者さんのために patients first

- 1 「真心をこめた医薬品を通じ、
人々の健やかな暮らしを実現する」
それが **sawai** の使命です。
- 2 「創造性を追求し、
革新と協調により社会と共に成長する」
それが **sawai** の挑戦です。
- 3 「お役に立ちたいという心を持ち、
なくてはならない存在になる」
それが **sawai** の願いです。

CONTENTS

ごあいさつと業績のご報告/ 第62期 連結財務ハイライト	1
Top Interview	3
TOPICS	5
連結財務諸表(要約)	7
会社概要	9
株式情報	10



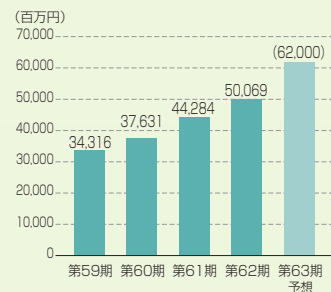
代表取締役会長
澤井 弘行

代表取締役社長
澤井 光郎

第62期 連結財務ハイライト

※()は通期の予想

売上高



大幅な増収増益により過去最高益を更新。配当も15円増配しました。

株主の皆さまにはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。第62期の株主通信をお届けするにあたり、日頃からのご理解とご支援に厚くお礼申し上げます。

当期の日本経済は一部回復の兆しが見られたものの、景気の停滞局面が続きました。医療用医薬品業界におきましては引き続きジェネリック医薬品の市場拡大が続くとともに、本年4月に「後発医薬品調剤体制加算」の見直しを含む制度変更(本誌6ページ)が行われ、ジェネリック医薬品のさらなる普及浸透が進もうとしています。

こうした状況の下、当社グループは「なによりも患者さんのために」の企業理念のもと、中期経営計画「M1 TRUST」に沿って、DPC病院への営業強化、コストコントロールの徹底、卸との連携強化といった諸施策に取り組んでまいりました。

この結果、当期の連結業績は売上高50,069百万円(前期比13.1%増)、営業利益8,518百万円(同82.5%増)、経常利益8,406百万円(同87.7%増)、当期純利益4,982百万

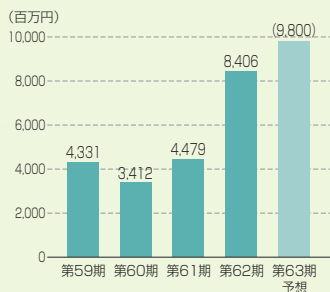
円(同104.3%増)と大幅な増収増益を達成し、過去最高益となりました。当期の業績を踏まえ、今年度の1株当たり年間配当は15円増の70円(期末配当40円)とさせていただきます。

次期につきましては、本年4月の薬価改正により薬価が業界平均6.3%引き下げられましたものの、ジェネリック医薬品使用促進策の強化により、ジェネリック医薬品の市場拡大は一層進むものと予想されます。

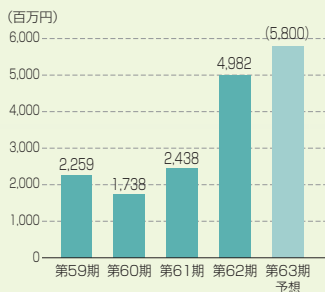
そうした中、当社グループでは中期経営計画「M1 TRUST」に基づく諸施策の実行を通じて業績伸展に努めることにより、連結業績は、売上高62,000百万円、営業利益10,000百万円、経常利益9,800百万円、当期純利益5,800百万円と2期続けての大幅な増収増益、最高益の更新を予想しています。

今後とも「なによりも患者さんのために」の理念のもと、さらなる飛躍を目指して邁進してまいりますので、一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

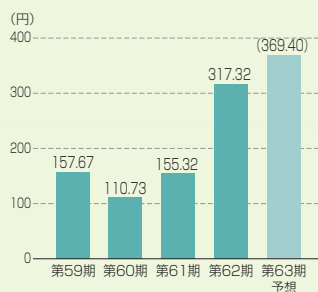
経常利益



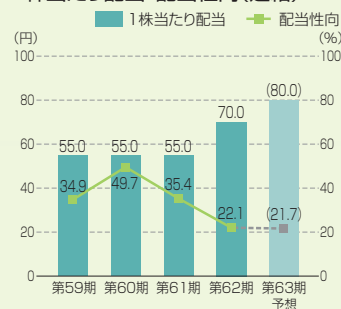
当期純利益



1株当たり当期純利益



1株当たり配当/配当性向(連結)



中期経営計画「M1 TRUST」の目標達成に向けて 着実に進捗しています

Q. 数値目標の達成状況はいかがですか？

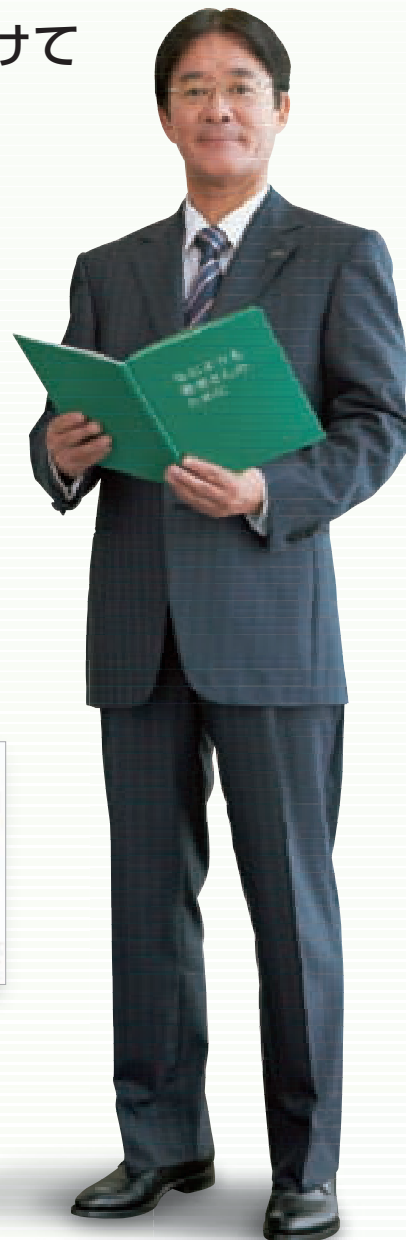
A. 初年度の目標は達成しました。「M1 TRUST」の初年度である2009年度の売上高は計画を上回る500億円となり、ジェネリック医薬品市場の伸びを大きく上回りました。利益につきましては、売上増加や、コストコントロールの効果が現れてきたことから計画を大幅に上回りました。

2009年度中計目標と実績(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
中計目標	49,000	5,800	5,600	3,150
実績	50,069	8,518	8,406	4,982
達成率(%)	102.2	146.9	150.1	158.2

Q. どのようなお薬が伸びましたか？

A. 新製品では、排尿障害改善薬の「ハルスローOD錠」、胃潰瘍・逆流性食道炎薬の「ラソプランOD錠」、高血圧症・狭心症薬の「アムロジピンOD錠」などの大型製品が大きく伸びました。また、既存品も2005年以降発売の生活習慣病薬を中心に好調な販売となりました。2010年度も付加価値の高い大型製品を上市していく予定です。



「M1 TRUST」の基本方針

- ①市場成長率を大きく上回る売上高の伸長
- ②徹底したコストコントロールと、効果的な戦略投資による経営体質のさらなる強化
- ③ゆるぎない「サワイ」ブランドの構築

経営数値目標(2011年度)

売上高 740億円

営業利益 115億円 経常利益 111億円 当期純利益 60億円

Q. どのような市場が伸びましたか？

A. 病院向けの販売が2割以上伸び、特にDPC病院での伸び率が大きくなりました。また保険薬局市場の深耕も順調に進んでいます。病院を担当するMRを中計期間中に増員する計画です。これからますますジェネリック医薬品の採用が拡大すると考えられるDPC病院市場への対応を図っています。

Q. ブランド構築についてはいかがですか？

A. 品質、情報提供、安定供給において、信頼を得ることをブランド構築の基本としてまいりたいと考えています。このような努力がお取引先様からの高い評価に繋がり、また、「日経ビジネス」誌において、「不滅の永続企業 製造部門第54位(東証1部上場企業1583社中)」にランクされました。「サワイ」ブランドをさらに高めるために、今年の当社グループを表す漢字として「礼」を掲げました。「サワイ」製品がますます普及していく中で、礼を欠かさず、礼を尽くす会社であり続けたいと願っております。



日経ビジネス
2009年10月12日号

Q. 今回の診療報酬・調剤報酬改定が、今期業績に与える影響をどのように捉えておられますか？

A. 今回のジェネリック医薬品使用促進策の中では、「後発医薬品調剤体制加算」の見直し(本誌6ページ)の影響が大きく出てくると見ております。薬剤師の先生方に、患者さんのみならず医療機関に対してジェネリック医薬品切替を積極的に働きかける動きが多く見られるようになり、当社が強みを持つ保険薬局市場において大きな伸びが見込まれます。当社は、卸会社とも連携し、保険薬局市場への売上を大きく伸ばし、今期業績の達成を目指してまいります。

TOPICS | トピックス

5月に14成分17品目の新製品を発売しました

2010年5月に、緑内障・高眼圧症治療剤の「ラタノプロスト点眼液」やアレルギー性疾患治療剤の「セチリジン塩酸塩OD錠」をはじめとする14成分17品目の新製品を発売しました。

当社では、「なによりも患者さんのために」の理念のもとに、付加価値の高い製品を開発し、お届けしています。そのひとつが、OD錠。少しの唾液でも溶け、水なしで服用できます。さらに、最新の味認識装置を導入し、苦みが少なく、飲みやすい「患者さんにやさしい」お薬にしています。また、点眼液では先発医薬品に比べ、点眼時の刺激を少なくするとともに、開封前の冷蔵庫保存を不要にすることで取り扱いやすくしました。

■主要な新製品(2010年5月発売)

緑内障・高眼圧症治療剤	ラタノプロスト点眼液0.005%「サワイ」
アレルギー性疾患治療剤	セチリジン塩酸塩OD錠5mg/10mg「サワイ」
免疫抑制剤	ミゾリピン錠25mg/50mg「サワイ」
アレルギー性疾患治療剤	エビナジオンDS小児用1%
外用抗生物質製剤(ざ瘡治療剤)	クリンダマイシンリン酸エステルゲル1%「サワイ」



ラタノプロスト
点眼液0.005%
「サワイ」



セチリジン塩酸塩OD錠
10mg
「サワイ」



ミゾリピン錠
50mg
「サワイ」



エビナジオン
DS小児用
1%



クリンダマイシンリン酸
エステルゲル1%
「サワイ」

医療関係者向けWebサイトの機能を大幅に拡充しました

医療関係者向けに、これまで以上に多面的な情報提供をはかっていくことを目的に、医療関係者向けのWebサイトの機能を拡充しました。個々の製品検索機能に加え、全製品情報一覧を表示する機能や資料一括ダウンロード機能を追加。また、患者さんの自己負担比較検索のほか、取扱い卸・販売代理店の一覧、薬局のお役立ち情報など、医師・薬剤師の方により便利にご利用いただけるサイトになっています。

日本薬学会のランチョンセミナー共催など、コミュニケーション活動を積極展開しました

日本薬学会第130年会、第42回東海薬剤師学術大会でランチョンセミナーを共催しました。その他、一般向けの「日経健康セミナー21」にも協賛するなど、ジェネリック医薬品の普及に向けた啓発活動を今年も積極的に展開。また、三田工場では地域の小学生の見学受け入れ、九州工場では薬学生の体験学習として工場見学受け入れを行うなど、地域・社会との交流を進めています。



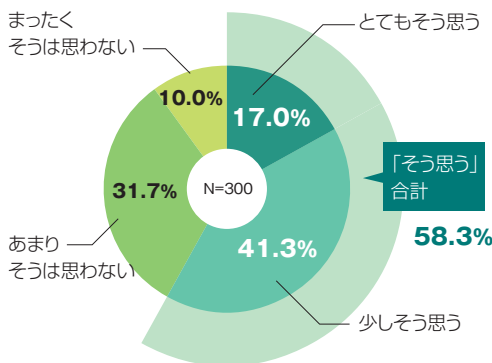
「患者さん」「薬剤師の先生」への調査を実施、 医療現場でのジェネリック医薬品の浸透が着実に進んでいます

薬剤師対象の調査からは、ジェネリック医薬品がもっと普及すべきと考える薬剤師が約6割に達するなど、薬剤師の意識が少しずつ変化していることがわかりました。また、患者さん対象調査では、ジェネリック医薬品認知のきっかけとして病院・保険薬局のポスター、医師・薬剤師など、医療現場・調剤現場からの割合が増えていることがわかりました。これは医師や薬剤師の理解が

徐々に進み、医療現場・調剤現場での浸透が着実に進んでいることを示しています。医療関係者は医療用医薬品の選択のキーとなる人だけに、今後こうした動向が続くことで、ジェネリック医薬品への正しい知識と市場の拡大が期待できます。当社では、これまで以上に医師や薬剤師への情報提供活動を積極的に行い、信頼を培い、需要獲得を図っていきたいと考えています。

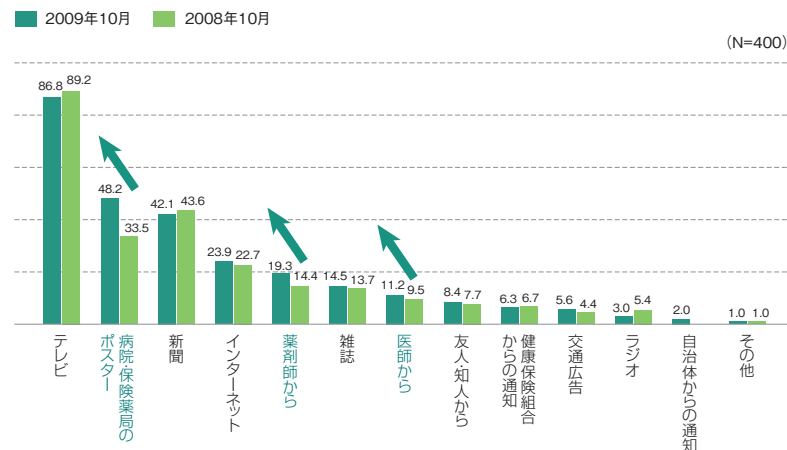
■薬剤師対象調査

「ジェネリック医薬品」は
今後もっと普及すべきとお考えですか？



■患者さん対象調査

「ジェネリック医薬品」を、何でお知りになりましたか？



ジェネリック医薬品使用促進に向け、診療報酬・調剤報酬が改定されました

今回の制度改定の最も大きなポイントは、保険薬局の「後発医薬品調剤体制加算」の見直し。算定基準が処方せんの枚数ベースから数量ベースに変わり、加算点数も従来の4点から、ジェネリック医薬品の使用割合に応じて6点、13点、17点へと大幅に引き上げられました。これにより、ジェネリック医薬品の使用割合が高まることが期待されます。このほか、薬剤料が包括外算定の入院患者に対する病院における「後発医薬品使用体制加算」の新設、保険薬局での変更調剤の自由度を高める改定、患者さんがジェネリック医薬品をより選択しやすくするための規則の改正などが行われました。

連結財務諸表(要約)

連結損益計算書

単位：百万円

科 目	当連結会計年度 平成21年4月1日～ 平成22年3月31日	前連結会計年度 平成20年4月1日～ 平成21年3月31日
① 売上高	50,069	44,284
売上原価	26,274	25,156
② 売上総利益	23,794	19,128
③ 販売費及び一般管理費	15,275	14,460
営業利益	8,518	4,667
営業外収益	172	131
営業外費用	284	320
経常利益	8,406	4,479
特別利益	—	0
特別損失	34	159
税金等調整前当期純利益	8,372	4,320
法人税、住民税及び事業税	3,571	2,211
法人税等調整額	△ 432	△ 610
少数株主利益	250	281
当期純利益	4,982	2,438

Point ① 売上高

病院・保険薬局向け販売が好調であったことから、当初計画を上回り、前期比13.1%増の50,069百万円となりました。

Point ② 売上総利益

売上高増加による要因のほか、前期のたな卸資産評価損の反動、需要増に向けた在庫積み増しによる増産効果および製造原価低減を図った結果、売上総利益は前期比24.4%増の23,794百万円となりました。

Point ③ 販売費及び一般管理費

- 人件費…5,297百万円(前期 4,873百万円)
主にDPC病院への営業強化のために、情報提供活動を行うMRを増員
- 試験研究費…3,593百万円(前期 3,408百万円)
新製品のいち早い上市を確実にすべく、数年後の特許切れを見据えた開発を早期段階から実施
- 広告宣伝費…800百万円(前期 857百万円)
後発医薬品使用促進策実施に合わせて広告を集中展開した前期に比べ、広告時期を年間を通じて平準化するとともに、広告宣伝費の総額を抑制

連結キャッシュ・フロー計算書

単位：百万円

科 目	当連結会計年度 平成21年4月1日～平成22年3月31日	前連結会計年度 平成20年4月1日～平成21年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	7,906	3,168
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 5,328	△ 3,036
財務活動によるキャッシュ・フロー	347	1,027
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	—
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	2,926	1,159
現金及び現金同等物の期首残高	6,548	5,388
現金及び現金同等物の期末残高	9,474	6,548

連結貸借対照表

単位：百万円

科 目	当連結会計年度 平成22年3月31日現在	前連結会計年度 平成21年3月31日現在
資産の部		
流動資産	48,016	38,953
現金及び預金	9,474	6,548
受取手形及び売掛金	18,540	17,289
たな卸資産	18,081	13,588
繰延税金資産	1,786	1,321
その他	144	231
貸倒引当金	△ 10	△ 25
固定資産	33,219	33,366
有形固定資産	31,784	31,821
建物及び構築物	18,068	18,584
機械装置及び運搬具	6,608	6,943
土地	5,139	5,139
リース資産	18	26
建設仮勘定	569	31
その他	1,379	1,096
無形固定資産	478	598
投資その他の資産	956	945
投資有価証券	658	544
長期貸付金	54	98
繰延税金資産	—	31
その他	290	299
貸倒引当金	△ 46	△ 28
資産合計	81,235	72,319

単位：百万円

科 目	当連結会計年度 平成22年3月31日現在	前連結会計年度 平成21年3月31日現在
負債の部		
流動負債	25,441	20,910
支払手形及び買掛金	10,039	6,527
短期借入金	6,602	5,080
リース債務	12	10
未払金	4,072	6,075
未払法人税等	2,658	1,587
引当金	1,775	1,392
その他	279	236
固定負債	9,536	9,703
長期借入金	8,171	8,471
リース債務	11	20
引当金	363	322
繰延税金負債	185	138
負ののれん	26	38
その他	779	711
負債合計	34,978	30,613
純資産の部		
株主資本	44,086	39,968
資本金	11,501	11,501
資本剰余金	11,825	11,825
利益剰余金	20,762	16,644
自己株式	△ 3	△ 2
評価・換算差額等	153	86
その他有価証券評価差額金	153	86
新株予約権	201	82
少数株主持分	1,815	1,567
純資産合計	46,257	41,705
負債及び純資産合計	81,235	72,319

連結株主資本等変動計算書

当連結会計年度(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

単位：百万円

科 目	株 主 資 本					評価・換算差額等		新株予約権	少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計			
前期末残高	11,501	11,825	16,644	△2	39,968	86	86	82	1,567	41,705
当期の変動額										
剰余金の配当			△863		△863					△863
当期純利益			4,982		4,982					4,982
自己株式の取得				△0	△0					△0
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)						67	67	119	247	433
当期の変動額合計			4,118	△0	4,118	67	67	119	247	4,552
当期末残高	11,501	11,825	20,762	△3	44,086	153	153	201	1,815	46,257

会社の概要 (平成22年3月31日現在)

社名	沢井製薬株式会社
創業	昭和4年4月1日
設立	昭和23年7月1日
資本金	115億165万円
従業員数	862名(連結)
事業内容	医薬品の製造販売および輸出入
販売品目	生活習慣病(高血圧症、脂質異常症、糖尿病等)治療剤、抗がん剤など医療用医薬品約500品目および一般用医薬品
主要取引銀行	三井住友銀行、三菱東京UFJ銀行、みずほ銀行
ご採用先	国立病院など全国約7,200病院(カバー率約81.8%)、約32,000医院・診療所(約31.2%)、および約47,000保険薬局(約73.8%)(平成22年3月31日現在)
販売代理店	西部沢井薬品ほか国内140社、海外1社および広域卸
提携会社	明治製菓(株)、旭化成ファーマ(株)、積水メディカル(株)、扶桑薬品工業(株)、バイエル薬品(株)、日本化薬(株)ほか

役員 (平成22年6月24日現在)

代表取締役会長	澤井 弘行	取締役	小玉 稔
代表取締役社長	澤井 光郎	取締役	尾鼻 康弘
常務取締役	岩佐 孝	取締役	澤井 健造
常務取締役	戸谷 治雅	常勤監査役	小西 俊明
常務取締役	木村 圭一	監査役	澤井 武清
常務取締役	横浜 重晴	監査役	上田 耕治
取締役	稲荷 恭三	監査役	菅尾 英文
取締役	徳山 慎一	監査役	高橋 孝志
取締役	高橋 嘉輝		

本社・事業所・グループ会社 (平成22年3月31日現在)

本社・研究所	大阪市淀川区宮原5丁目2-30
支店	札幌、仙台、さいたま、東京、名古屋、大阪、広島、福岡
営業所	上信越、東京東、東京西、横浜、静岡、京都、神戸、北陸、高松、岡山、熊本
工場・研究所	九州工場、三田工場、大阪工場、関東工場、メディサ新薬九州工場、化研生薬八郷工場、製剤研究センター
関連会社	メディサ新薬株式会社、化研生薬株式会社

株主メモ

決算期	3月31日
定時株主総会	6月
1単元の株式の数	100株
配当金受領株主確定日	3月31日および中間配当を行うときは9月30日
基準日	定時株主総会については3月31日といたします。 その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めます。
株主名簿管理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
電話照会	〒541-0041 大阪市中央区北浜二丁目2番21号 中央三井信託銀行株式会社 大阪支店 証券代行部 ☎0120-78-2031 株式関係のお手続用紙のご請求は、次の中央三井信託銀行の 電話およびインターネットでも24時間承っています。 ☎0120-87-2031 http://www.chuomitsui.co.jp/person/p_06.html

同取次所	中央三井信託銀行株式会社 本店および全国各支店 日本証券代行株式会社 本店および全国各支店
郵便物返送先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 中央三井信託銀行株式会社 証券代行事務センター
名義書換手数料	無料
公告方法	電子公告としております。ただし、事故やその他止むを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。 ※公告掲載の当社ホームページアドレス http://www.sawai.co.jp/ir/index.html

住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。

未払配当金の支払について

株主名簿管理人である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。

株式状況

発行可能株式総数	38,800,000株
発行済株式の総数 (自己株式662株を含む)	15,702,000株
1単元の株式の数	100株
株主数	6,947名

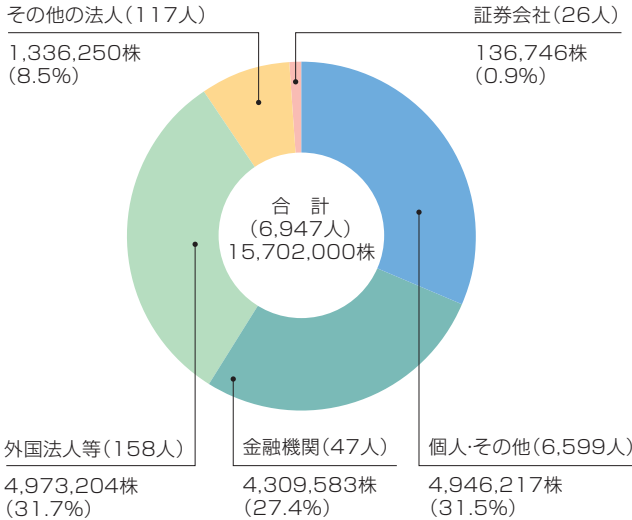
大株主

株主名	持株数
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	984,400株
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	805,600株
澤井 光郎	771,300株
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	629,000株
ゴールドマン・サックス・アンド・カンパニーレギュラーアカウント	625,855株
サワケン株式会社	487,000株
澤井 健造	484,000株
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー 505044	410,700株
ザチース マンハッタンバンク エヌエイ ロンドン エス エル オムコパス アカウント	364,810株
澤井 弘行	315,300株

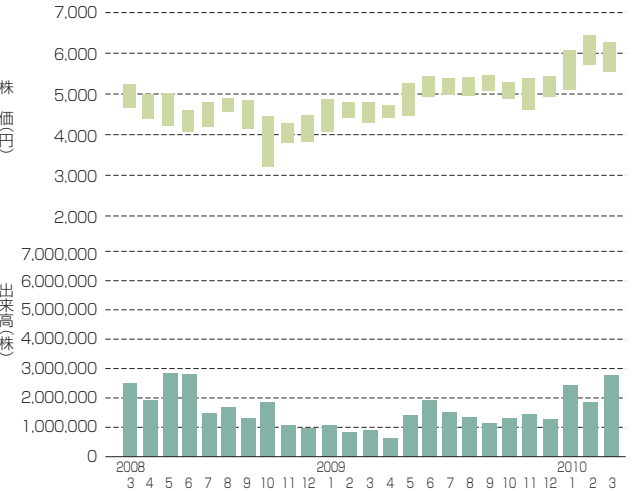
(注) 上記の持株数のうち、信託業務に係る株式数は、次のとおりであります。

日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	984,400株
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	805,600株
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	629,000株

株式分布状況



株価 (高値・安値) および出来高の推移



もっと知りたい! sawai

沢井製薬の広報活動

ジェネリック医薬品の普及と「サワイ」ブランドの向上を目的に、さまざまな広報啓発活動を展開しています。

医療関係者向け広告(専門誌広告)



ハイブリッド型口腔内崩壊錠のハルスローOD錠やランプランOD錠の製品広告



「新たな付加価値をプラスする」をコンセプトに、当社の製剤技術の高さを訴求

一般の方向け広告

新聞広告

2009年度読売新聞に毎月掲載したQ&A方式の突き出し広告「おしえてジェネリック」



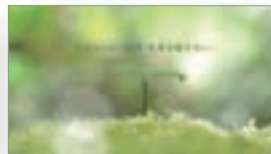
雑誌広告

日経ビジネス記事広告「“選ばれる医薬品メーカー”を目指す」



テレビCM

「工場編」、「旅先編」に加え、「製剤工夫編」を制作・放映



☑ アンケートにご協力ください

当社は、「株主通信」を株主の皆さまとの大切なコミュニケーション誌と考えています。お手数をおかけしますが、アンケートはがきにご記入いただき、ご返送をお願いいたします。株主の皆さまからのご意見やご要望を、今後のIR活動や株主通信の企画制作に生かしてまいります。

沢井製薬株式会社

大阪市淀川区宮原5丁目2-30 〒532-0003
TEL: 06-6105-5711 FAX: 06-6394-7311
<http://www.sawai.co.jp>



ミックス品
FSC認証林及び管理された
森林からの製品グループです
www.fsc.org Cert no. SGS-COC-001508
© 1996 Forest Stewardship Council